



### 薬剤部からのお知らせ 妊娠と薬相談について

服薬中の患者さんが妊娠した、あるいは妊娠を希望されていると打ち明けられた場合、どのように対応されますか？

一番身近な情報源である添付文書の【妊婦・産婦・授乳婦等への投与】の項には、『有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与』あるいは『避けることが望ましい』と記載されていることが多く、『絶対ダメ』ではないにしても、投与を躊躇してしまうかもしれません。しかし、添付文書の意味するところは、ヒトへの投与において催奇形性や胎児毒性の報告が実際にあるとは限らず、投与対象が妊婦という特性上、倫理的問題により投与の是非を検証できず、安全性の確立した報告が未だないことから投与に否定的な内容の記載となっているものがほとんどです。情報源としては添付文書や海外のリスクカテゴリー等の公的文書のほか、各種ガイドライン、専門書籍等がありますが、必ずしも十分なデータが収集されていないのが現状です。

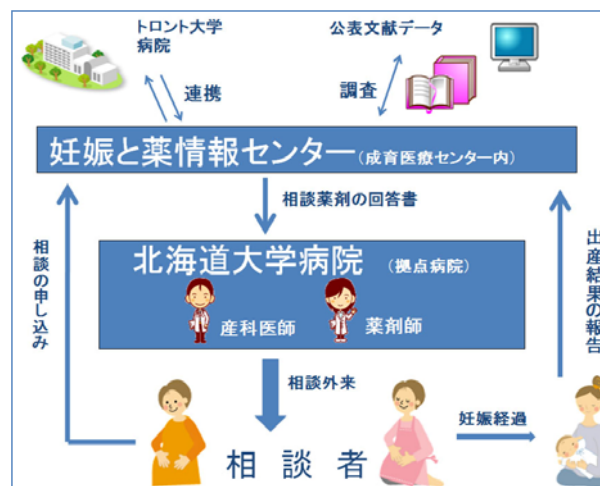
そのような背景のなか、国立成育医療センター内に、妊娠と薬情報センターが厚生労働省の事業として設置され、2005年10月より、「妊婦・胎児に対する服薬の影響」に関する相談（妊娠と薬相談）・情報収集を実施しています。相談に際しては、トロント大学（カナダ）と連携し、小児科病院で蓄積されたデータ他、既存の文献を基礎情報として活用し、科学的に検証された医薬品情報を妊婦や妊娠希望者に提供することで、相談者の不安や悩みに答えるよう務めています。また、出産結果をお知らせいただくことで、日本人のデータ構築

をめざしています。当院は2008年より拠点病院となり、その活動の一旦を担っております。

一般に薬剤服用の有無にかかわらず、正常な妊娠の場合でも、3%程度の先天異常の発生が報告されていますので、相談外来ではこの大前提を踏まえた上で説明を行ないます。慢性疾患を抱える患者さんの場合は、妊娠前の相談も多く、原疾患コントロールの必要性等を説明し服用拒否等ほしくないよう主治医と相談のもと、計画的な妊娠を行うよう勧めています。

また、妊娠と気付かず薬剤を服用したような患者さんの場合には、薬剤のリスクのみでなく、前述したように服用しなくてもリスクは存在すること等補足説明しながら個々の患者さんに沿ったカウンセリングを行なっています。

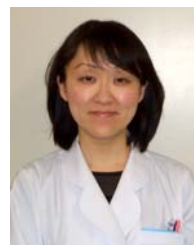
ぜひ、妊娠と薬に関する相談にお困りの場合には、当外来にご相談ください。



妊娠と薬相談センター  
<http://www.ncchd.go.jp/kusuri/index.html>

### Staff Interview

薬剤師 新沼 朋美



普段は、製剤室業務を担当していますが、妊娠と薬相談外来は西村と2人で担当しています。2人ともママさん薬剤師なので、自身の妊娠・出産・授乳経験も多少ふまえながら、産科医師とともにカウンセリングを行っています。相談外来では不安な気持ちでいっぱいの方々の気持ちに寄り添いつつも、十分納得して少しでも笑顔になって帰っていただけるようにじっくり時間をかけてカウンセリングを行うよう心がけています。

編集委員：林 ねり子、水口 貴史、川岸 亨、笠師 久美子

ご意見、ご感想をお待ちしています kusuri@med.hokudai.ac.jp